

—文化は資本だ—創造経済と社会創造

- 開催日 2015年3月8日(日)
- 会場 大阪ビジネスパーク 松下IMPホール
(大阪府大阪市中央区城見 1-3-7)

(14:00～14:05)

開会挨拶

高嶋達佳(公益社団法人企業メセナ協議会 会長)

会議の開催にあたり主催者を代表して一言ごあいさつ申し上げます。皆様にはお忙しい中、ご来臨を賜りまして、誠にありがとうございます。

私ども企業メセナ協議会は1990年に設立しまして、今年、25周年の節目を迎えました。実は日本では、企業を中心とする民間が、芸術文化の振興に大きな役割を担ってきたという歴史があります。ここ大阪でも、中之島公会堂の建設に寄与した岩本栄之助、宝塚歌劇団の生みの親である阪急電鉄の小林一三、「経営は芸術である」と語った松下幸之助などの先駆者を挙げることができます。また近年では、商店街の皆さんが多くの寄付を集めて「天満天神繁昌亭」をおつくりになる、そうした民間の心意気で文化を盛り立ててこられました。

同じように全国各地で、規模もさまざまな企業が、地域の文化を支え、芸術文化の担い手を育み、文化を通じた豊かな社会を実現しようと尽力しておいでです。私ども協議会は、そうした企業の取り組みを明らかにし、メセナ運動の輪を広げるべく発足したものです。

さて、今回の会議は「文化は資本だ—創造経済と社会創造」をテーマとしています。文化を資本とする経済や社会のあり方について、国内外からお招きしたゲストの皆様、ご来場の皆様方と意見を交わってまいりたいと思います。かつて近江商人は「三方一両得」と言いました。「売り手よし、買い手よし、世間よし」。そしてサントリー創業者の鳥井信治郎は「利益三分主義」を掲げられました。その精神は、今日の企業経営にとっても実に示唆に富むものです。経済の担い手である企業が創造的になり、新たなサービスや製品を提供して社会にインパクトを与えていく。さらにメセナ活動によって社会とのコミュニケーションを深め、社会からの信頼を得、そこにある課題や新たな価値を発見して、それがまた経済へと循環していきます。そういう意味でもメセナはクリエイティブな行為ですし、経済と文化が車の両輪のようにかみ合うことで本当に豊かな社会が実現するのだと考えています。

さて、2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあり、特に、文化は東京だけでなく全国で展開されることとなっています。世界の目が日本に向けられるこの機を捉え、日本各地の多彩な文化を発信するとともに、文化による国際交流を進め、2020年でとどまることなくさらに未来に向けた文化を創造していきたいと考えています。

こうした観点から、この会議を開催する運びとなりましたが、実現に向けてご尽力いただきました文化庁、国際交流基金、関西・大阪21世紀協会、そして多数の企業、関係各位にあらためて御礼申し上げます。

本日ご来場の皆様とともに、芸術・文化を通じた社会創造を目指し、文化振興のプラットフォーム形成に努めてまいりたく、いっそうのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。